

2018年4月1日

学長 殿

文学部長
合田 正人

明治大学名誉教授推薦書

被推薦者名： 藤田 直晴
(2018年3月31日 文学部専任教授退職)

推薦理由：

藤田先生は、1982年4月に本学文学部に専任講師として採用され、以来36年の永きにわたり、本学の教育と研究に力を尽くされた。

先生の専門は、人文地理学の中かの都市地理学及び地域研究であり、都市システム論、大都市内部構造論、多文化空間論という主に三つの領域により構成される。先生は、都市の形成要因として特に金融と企業の立地行動に着目され、1970年代末から多くの先駆的研究を残された。1988年に刊行された『所得・資金の地域構造』（共編著）は、今日でも引用される古典として高く評価されている。地域研究では、30年にわたり日本とカナダという対照的な国の都市と地域を精緻に分析され、都市の生成・発展、多文化共生、地域格差といった世界が直面する普遍的課題に取り組みられた。先生の業績は218本、うち51本は英語あるいは中国語で、国際会議や雑誌を通して海外にも精力的に研究発信された。2004年度と2008年度には、カナダに関して、文部科学省科学研究費補助金基盤研究（B）がいずれも代表者として続けて採択され、本学を拠点とする研究プロジェクトを主導され、本学の学術研究の向上に貢献された。

大学の役職としては、文学部の学生部員、全学的には学長特任補佐、国際交流センター所長、副学長（国際交流担当）として、明治大学の国際化を強力に主導され、今日の国際連携の基礎を創りあげるのに力を尽くされた。学外では、国際地理学会（IGU）研究委員会アジア代表理事、国際カナダ研究協議会（ICCS）理事など、日本を代表して海外でも幅広く活躍された。国内では日本カナダ学会会長、経済地理学会『経済地理学年報』編集長など多くの役職を歴任し、斯学の発展に貢献された。また日本国外務省北米政策評価委員、日本学術振興会科学研究費補助金審査員、カナダ国費留学生選考委員、蓮田市史編集委員会現代部会長など、日本政府、地方自治体、外国政府の諸事業にも積極的に協力された。特に明治大学が自ら立ち上げ、日本の多くの主要大学が参加して成立した「日加戦略的學生交流プログラム」をはじめ「日仏共同博士課程」でも日本側幹事長として活躍され、明治大学の評価向上に多大な貢献をされた。

以上のように、藤田直晴先生は専門とする地理学及び地域研究の領域における豊富かつ優れた学術的業績を達成し、学内外の教育研究にも多大な貢献をしている。よって、ここに本学名誉教授としてふさわしいと判断し推薦するものである。

以上

添付書類

- 1 履歴書
- 2 業績書